

取扱額は4.6%増加

北海道の野菜、8.5%増

全青卸連調査

青果仲卸の全国団体である全国青果卸売協同組合連合会(宮本浩章会長、会員42組合・1198業者)では、昨年(1~12月)の会員取扱実績(卸等からの仕入額+利益を加えた販売額ではない)をまとめた。合計取扱額は1兆1390億円、前年比4.6%増加した。とくに全体の3分の2を占める野菜が6.4%増となったことが大きい。果実は1.1%増。地区別では北海道の野菜(8.5%増)および果実(4.1%増)、九州の野菜(8.0%増)などが伸長した。

仕入先では、所属市場の卸からが大半で、それ以外(直荷引き)は蔬菜10.9%、果実11.6%、合計では11.2%。近年、この割合はほとんど変わらない。地区別では、関東と九州で

が多く、その他の地区では蔬菜・果実とも9割以上を所属市場の卸から仕入れている。1組合員当たりの平均取扱額は9億5083万円で9.8%増。地区別では、北海道・東北の15億6814万円、九州の12億8053万円などが目立つ。一方、関西は7億1127万円で、北海道・東北とは2倍以上の開きがある。組合別では、仙台(21億1469万円)と横浜中央(20億4769万円)が平均20億円以上。これに北足立、八戸、札幌などが続く。

平均取扱額は、6741万円(前年比7.9%増)。蔬菜・果実・蔬果の業態別でもほとんど差がなく、6700万円台となっている。ただ、地区別では、関東東では7割以上が平均をクリアしているが、九州では

が、その他の地区では蔬菜・果実とも9割以上を所属市場の卸から仕入れている。

おり、最も少ない九州(4750万円)とは1.7倍の開きがある。

組合別では、全国平均を上回った組合は22組合。関東では7割以上が平均をクリアしているが、九州では

なかった。組合別で最高の板橋(1億2488万円)と、最低の組合(36605万円、九州地区)では、3.5倍の開きがある。

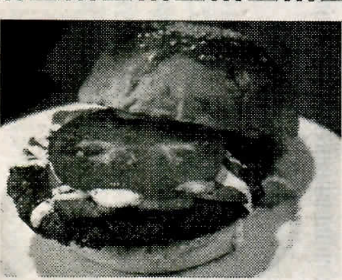
主に淡水に生息する藻の一種である、ミドリムシ(学名ユウグレナ)。植物のように光合成を行い、細胞を変形させて動物のように動いたり、植物と動物の性質を持っている。体長わずか0.1mmではあるが、59種類の栄養素を含有。

有。ビタミンB群やE、ミネラル類、9種類の必須アミノ酸、DHA、EPAなどの不飽和脂肪酸など「野菜」と「魚」の栄養素を備えている。

これは、このユウグレナを、世界で初めて食品として屋外大量培養することに成功したのが「ユウグレナ(出雲充社長、東京都渋谷区)だ。同社では、晴天の日が多く光合成に適しているときれ

1日の摂取量として、これだけで50グラムエビ約取できると

関東の蔬果業者の136億2990万円。蔬菜業者に限った最高は東海・北陸の96億4756万円。果実業者の最高も東海・北陸の48億5012万円であった。



野菜と魚の栄養が摂れる!

新食材「ミドリムシ」

このユウグレナを、世界で初めて食品として屋外大量培養することに成功したのが「ユウグレナ(出雲充社長、東京都渋谷区)だ。同社では、晴天の日が多く光合成に適しているときれ

1日の摂取量として、これだけで50グラムエビ約取できると

営業従事者1人当たりの

取できると